

米景況感の改善を期待 ~ NY連銀/フィラデルフィア連銀景況感指数

2011年5月16日(月)

今週は、米国で景況感を表す指標が二つ発表されます
16日月曜日はNY連銀製造業景況感指数(5月)、
19日木曜日はフィラデルフィア連銀景況感指数(5月)です。

今月は6日に発表された米雇用統計で
非農業部門雇用者数(NFP)が予想を上回る好結果。
先週12日発表された小売売上では
全体が+0.5%と予想の+0.6%をわずかに下回ったものの
前回の数字が+0.4%から+0.9%に大きく上方修正されるなど
なかなかの数字を示していました。
これをうけて、
ここに来て強まっていた米景況感への悲観的な見方が後退。
来月にQE2(量的緩和政策第二弾)の終了を控え
今後への判断を中立に戻す動きが強まっているようです。

そうした状況だけに
今後の景況感への影響が大きい景況感からの指標は重要になってきます。
もし、景況感が強めに出てくると
今後への楽観論が強まっているとして
出口戦略への見通しも前向きになると期待されるからです。

前回はNY連銀製造業景況感指数が
予想の17.0に対して21.7と強めの数字。
一方、フィリーは予想の37.0に対して18.5と大幅に弱めの予想と
まちまちとなりました。
フィリーに関しては、3月の数字が
43.4と27年ぶりの高水準となった反動という面もあったとは思われます
(数字は現状と6ヶ月先について、1ヶ月前との比較で現されるので、
1ヶ月前に期待感が実情以上に強まっていると調整が入りやすい)
ただ、少し落としすぎで
米景況感について、堅調という意識を強く持ちすぎるとリスク
という印象を抱かせるものでした。

今回は、NY連銀が20.00と前回の21.7から少し低下
フィリーが23.0と前回の18.5から少し改善という見通しです。
ただ、これら景況感関係の指標は
予想と結果の乖離がかなり大きいことが特徴。
ともに予想を大きく上回ってくる可能性は十分にあります。

4月の小売チェーンの既存店売り上げが結構しっかりしているなど
ここに来て個人消費の動きが活発化している印象があるだけに
製造業側も景況感を強めに見込んでいる可能性は十分あります。

予想程度の場合、それほど大きな動きにはならないと思われ、
先月同様二つの指標結果がまちまちになると
影響が相殺されてしまいますが
注目しておくべき指標だと思われ。

なお、今週は17日21時半に住宅着工、19日23時に中古住宅販売と
住宅関連の重要指標も発表を予定しています。

住宅市場は
サブプライムショック、リーマンショックなどをうけて
住宅ローンの抵当流れ物件が多数生じ
市場の低迷が長期化していますが
米景況の回復とともに少しずつ回復の期待が出ています。
出口戦略への期待感が強まり
実際に利上げというような状況になるまでは
住宅市場もある程度回復していただきたいところですので
結果をきちんと見ておきたいところです。